

# 教化センターだより

## No400

発行日 2020年10月1日  
発行 真宗大谷派大阪教区  
教化センター  
TEL 06-6251-0745  
FAX 06-4708-3278

### 大阪教区教化センター発行書籍の紹介

新刊『<sup>いのち</sup>生命の<sup>あしおと</sup>足音』<sup>きょう</sup>教化センター紀要36号 407頁



頒布価格 1,500 円 (税込・送料別)

本書は2020年6月30日に刊行されたもので、9月の全寺院発送にて教区内の寺院に一冊贈呈したものです。追加をご希望の場合は教化センターまで注文ください。

#### < 掲載内容 >

- ・『現代と宗教』講義 和田稠  
第九講 共にひとつ世界を生きようと  
第十講 迷いの深さは人間存在そのものの深さ  
第十一講 いのちの根源的要求
- ・現代教学研究班報告 頼尊恒信・長井正純・榊原泰生  
寺院・諸施設のバリアフリー研究Ⅱ  
—実質設計計画に向けて—
- ・教学儀式研究班報告 池田英二郎・高島章・北畠玄  
『三十七則御札選要』(三)  
『稟承餘艸』差し上げ 請書(仮題)
- ・歴史研究班報告 上場顯雄・長谷真一郎・松谷泰明  
教区南部地域諸寺院考
- ・人権研究班報告 三好泰紹・山雄竜麿・松川真哉  
非戦・平和—『真宗教学懇談会』からの示唆—
- ・教化研究班報告 安間観志・橋本知良・三村翔子  
『大無量寿経』に聞く(1)—如来興世の本意—

—教化リーフレットの

活用について—

4枚の「教化リーフレット」は、各寺院・教会におおむね「寺報」や個別に複写しての配布、同朋会や聞法会での教材としての活用いただければ幸いです。

—11月のリーフレット—

リーフレット①

「掲示板のごとは」……秦井祥雅  
「わがはからわざるを自然ともうすなり」

リーフレット②

「今月のことば」……越本達

「往還廻向由他力  
正定之因唯信心」

リーフレット③

「もしもし相談」……山雄竜麿  
『どっししたら目標や夢を持てるの?』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」  
「悲しそうなオオカミ」

(敬称略)

# わが

# はからわ

# ざるを

# 自然と

# もうすなり

― 『歎異抄』 ―

私は「子ども食堂」でボランティアをしています。同じ地域にある本願寺派のお寺の本堂を会場にして、週に一回、子ども達と一緒に晩ご飯を食べたり、学校の宿題をしたり、遊んだりする活動です。

子ども達と関わる事が中心の活動でありながら、私は子どもと接することに変な苦手意識を持っていました。対応の仕方が分からなかったのです。「話しかけて気持ち悪がられたらどうしよう」「完全に無視されているところを同じスタッフの人に見られたら格好悪いな」等々の意識が働いていました。しかし、同じスタッフの人が、子どもにどんな悪態をつかれても諦めずに子どもた

ちに親身に話しかけている姿を見て、傷つくことを恐れている自分に気が付かされました。

子どもは本音で接してきます。人としてこうあるべきだとか、大人の体裁は通用しません。私は、社会性の名の下に、自己保身の壁を築いていたのです。

その壁に少しだけ隙間を空けて、おそろおそろ子どもに話しかけてみました。返事が返ってきた時の嬉しさは格別です。まさに闇の中にこそ光はあるのだと感じました。「南無阿弥陀仏」は、様々な計らいをもつ私たちにつべこべ言わずに現実を直視しなさいという仏様からの応援に聞こえます。

(秦井祥雅)

往還廻向由他力  
正定之因唯信心

往・還の回向は他力に由る。  
正定の因はただ信心なり。

親鸞聖人の名著の『教行信証』の最初に「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、一つには還相なり」と書き出されています。それは、浄土真宗が往相回向、還相回向の二種の回向を内容とした仏道であり、「回向」こそが、その命であると押さえられ、以下その内容を詳しく展開されていきます。

本願力に由るといわれます。往還二回向というのは、二つの事柄があるのではなく、一つの事実について二つの相があるということなのです。事実として、私に先だってひたすらなる歩み（往相）をされている方がおられる。その歩んでおられる後ろ姿（還相）が周りの人、後から歩む人の限らない灯となり、力となって無限にはたらくのです。そういう後ろ姿に後からの方が支えられて歩み続けていくことを、**「前に生まれん者は、後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺**

の生死海を尽くさんがためのゆえなり」という道綽禅師の『安樂集』の言葉を引用して『教行信証』を結ばれています。「親の後ろ姿を見て子は育つ」という言葉があります。親もまた、子どもをまなざしによって育てられるのです。子どもたちも含め、私たちは**「前に生まれんひと」**のどういう後ろ姿にまなざしをむけ、どういう姿に立ち上がる勇氣や生きる力をいただくのでしょうか。「私の後ろ姿を見よ」と、自分の力を頼みにし、自分の力を誇りにしている人の姿ではないでしょうか。

ことです。しかし、私たちはなかなか現前の事実を受け止めることができません。そういう私だからこそ、苦悩の絶えぬ、問題の止むことのない現実に身を据え、念仏申しながらその苦悩や問題を受け止め歩まれた方々の後ろ姿は私に呼びかけるのです。「あなたはあなたのままで、あなたの事実に帰りなさい」と。その声を念仏と共に聞き続けることを「唯信心」と表現されたのでしょうか。

（越本達了）

今月のことば出典 『正信偈』

『真宗聖典』 206頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

## もしもし相談



もしもし相談  
どうしたら目標や  
夢を持てるの？

## 問

就職活動の面接で「あなたの実現したい目標や夢はなんですか」と聞かれ、うまく答えられませんでした。自分のやりたいこととって何だろうと考えてみたのですが、分からなくなってきました。どうしたら目標や夢を持つことができますか。

(20歳・男性)

## 答

自分の目標が見つからないことは、自分がこれからどこへ向かって進むのかわからない苦しみとも言えます。

他でもないお釈迦さま

もこの問題に悩まれました。釈迦族の王子として生まれたお釈迦さまは、王としての将来を約束され文武両道の才能にも恵まれました。しかし気がつかれたのです。必ず死んで行かねばならぬという事実。そこで、「いったいどこへ向かって進めばいいのか」と、真正面から悩まれたのがお釈迦さまとも言えましょう。幸いに、お釈迦さまが苦悩を経て悟られた内容は、お経となつて私たちに届いています。それは「人生の地図」とも言われ、私たちが進むべき目的地は「極楽浄土」とはつきり記されています。

まずは、自分の現在地を探ってみてください。

地図の上で最初に確かめるべきは現在地です。自分がどんな状況にあるかがはつきりして初めて進むべき方向が決まるのではないのでしょうか。すなわち、私とはいったい何であるかを問うことが大切なのです。

ちなみに、仏教では私たちの本質を「機」という漢字で表します。この漢字は「機会」という熟語

が示すように、何かのきっかけで物事が始まることを意味します。あるいは石弓のバネともいわれ爆ぜるのを待っている存在ということができます。

つまり、何かの縁によって思いもしない方向に飛んでいくのが「機」であり、私たちの本質なの

です。

もちろん将来の縁は予想できません。大切なのは、今ここにいるという縁に正面から向き合うことです。でも「機」である私はじっとしていることができません。刻々と私の状況は変わります。常に私という現在地を確かめる営みを続けたいと進むべき方向を見失うのです。

どうぞ、今のご自身の現在地を日々の生活の中で丁寧に尋ね続けてください。目的地につながる夢や希望が見えてくるはず。そしてこれが伝統的な言葉でいう「往生極楽の道」という営みそのものであります。

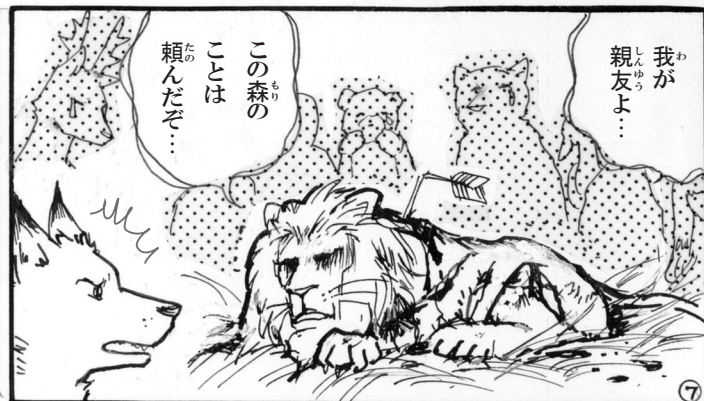
(山雄竜磨)



# 仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ〈184〉



参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ397)